

会議議事録

会議の名称	令和7年度 第1回 玉野市子ども・子育て会議
開催日時	令和7（2025）年6月5日（木）14時00分～15時45分
開催場所	玉野市すこやかセンター
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介 4 役員選出 5 議題 （1）こども・若者計画について （2）こども・若者計画策定に向けたアンケート等の実施とスケジュールについて （3）子ども・若者施策を取り巻く本市の現状 6 その他 （1）子ども・子育て関連協議団体の取り扱いについて 7 閉会
配付資料	資料1 こども・若者計画の概要 資料2 調査方法および調査対象、スケジュールについて 資料3 子ども・若者施策を取り巻く本市の現状 資料4 子ども・子育て会議で御意見、御協議をいただきたい項目 資料5 子ども・子育て関連協議団体の取り扱いについて 参考資料1 玉野市 若者の意識と生活に関するアンケート調査 参考資料2 玉野市 小学生・中学生・高校生の生活アンケートについての説明 参考資料3 玉野市 子どもの生活実態に関する調査について 次第、委員名簿、配席表、玉野市子ども・子育て会議設置要綱改正案、子育てガイド、こども誰でも通園制度

議事内容	
事務局	・ 開会 ・ 留意事項説明 ・ 配付資料
清板委員長 (開会挨拶)	・ 本日はお忙しい中、会議に参加くださいます、ありがとうございます。子ども・子育て会議は、玉野市が子どものために行っていく施策を市民の視点から審議する会議です。以前からこの委員会に参加している委員、新たに参加して下さった委員の皆さんと審議していくことになります。 ・ 玉野市の子ども施策は、従来から、就学前の時期、それに引き続く学童期の比較的年齢の若い時代の子どもたちが、健康に恵まれ、幸せに大きくなっていくための施策を、家庭、保育教育現場、地域社会三つどもえにおいて、どのように実施していくのかという施策を私たちが審議していくという形で進んできました。どちらかというと、ポジティブな方向により向けていく施策を扱っていたと思います。そんな中で、2012年に子ども・子育て支援法ができたあたりから、子育てに悩む親をどう支援していくかという視点が加わり、2015年から「子ども・子育て支援事業計画」の策定の作業を進めました。それは、2015年から5年間、2020年から2024年と、5年刻みで施策作りの作業を行っています。実は昨年度、この第3期の計画を審議し終え、今年度から5年間の計画が完成したところです。しかし、昨今の社会情勢では、気候変動、パンデミック、経済的格差や雇用の不安定さなどから貧困の問題、さらに世界に目を向ければ戦争もあり、子どもや若者たちという弱者に、しわ寄せが来て、犠牲になっているということを私たちは認めざるを得ない状況です。国もこども家庭庁を発足させ、「こども基本法」「こども大綱」を打ち出してきて、市町村でも、年齢層を広げた、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期、前期成人期あたりまでの子ども、若者をネガティブな状況からの脱却をするという方向を打ち出してきています。玉野市においても3期の子ども・子育て支援計画がスタートしていますが、これも包含した新しい計画を策定し進めていこうということになり、今日から始まるこの会議で、皆さんにご審議いただくことになりました。皆さんには、ご専門の領域等のお立場から、忌憚のない、率直なご意見をいただければと思っています。ご協力のほどをお願いしたいと思います。
事務局	・ 次第3の委員紹介は、本来なら各委員からご挨拶をお願いしたいのですが、議事の都合上、配席表の順に事務局からご紹介します。 ・ 委員紹介 ・ 出席者確認、会議の成立について ・ 事務局、(株)ぎょうせいの紹介 ・ 次第4役員選出について、委員長は昨年度に続き、清板委員長が継続となります。副委員長について、ご意見はありますか。
委員	・ 進賀委員を推薦する。

議事内容	
事務局	・ご賛同される委員は、拍手をお願いします。（拍手） ・拍手を持ちまして、承認としたいと思います。
清板委員長	・議事（１）こども・若者計画について、説明願いたい。
事務局	・資料１説明
清板委員長	・質問や分かりにくい点などがあれば、伺いたい。 ・なければ、（２）こども・若者計画策定に向けたアンケート等の実施とスケジュールについて、説明願いたい。
事務局	・資料２、４、参考資料１、２、３説明
清板委員長	・３つのアンケートで意識を拾い集めたものが大きな資料となる。もう一つは、３つの若者のグループで座談会を行い、生の声を聞き、内容を加えていく。大きく分けると、６つのことから資料を集め、それを基にしてこども・若者計画を作っていくことになる。 ・資料を見て、分かりにくい点などがあると思う。まず、参考資料１について、伺いたい。 ・サンプリングは、どのように行うのか。
事務局	・住民基本台帳から、年齢に偏りがないよう、５歳刻みで何名かずつ無作為抽出する形で２,０００名を選びたいと思う。対象者には、はがきでお知らせする。
清板委員長	・何かあれば伺いたい。
委員	・同じ対象、同じ内容のアンケートはあるか。 ・想定回収率は２５パーセントから３０パーセントなので、５００人くらいの回収を想定していると思うが、そのサンプル数で平均値が取れ、十分な意見が取れるのか。想定を下回った場合は、追加で実施することを検討しているのか。
事務局	・総合計画で、毎年２,０００名程度を無作為抽出し、市民意識調査としてアンケートを実施したことはある。ただ、それは玉野市民全体で、若者限定ではない。また、昨年度、子ども・子育て支援計画を策定する際に、小学５年生と中学２年生を対象としたアンケートを実施した。質問内容は、貧困などの新しい視点にもう少し踏み込んだ形になる。定期的にアンケートを実施しているが、今回はこども・若者計画に特化した内容になる。 ・一般市民を対象としたアンケートでは、回収率があまりよくないというのが正直なところである。市民意識調査は３３パーセントなので、想定回収率程度は見込めると思っている。標本誤差、一定程度このくらい的人数があれば、得られたデータの誤差は何パーセント以内という一般的な数値の出し方がある。これくらいであれば、ある程度誤差の範囲内に収まると思っている。

議事内容	
委員	・ ということは、今回、過去のデータと比較するわけではないということか。
事務局	・ 全く同じ項目がない場合もあるが、似たような項目で、過去のものから意識がどのくらい変わっているか比較できる項目については、比較が可能だと思う。これまでにないような視点の項目があるので、全部は比較できないと思う。
清板委員長	・ この年齢層に対するアンケートは初めてか。
事務局	・ 19 歳から 39 歳に限定したアンケートは、初めてだろうと思う。
清板委員長	・ ほかにあれば伺いたい。 ・ 問 31 の選択肢 8 番の専門相談機関には、「※電話、インターネットなども含む」とある。専門相談機関から発想される機関と、インターネットで不特定多数の人が答えてくれる、インターネットに答えを求めるというのでは、違うような気がするが、同じものとしてよいのか疑問に思った。
事務局	・ 「相談しますか」という問いが、面談のようなイメージになってしまうこともあるので、専門相談機関にメールで相談するというものも含む趣旨でこう記載した。たしかに SNS の掲示板などと混同されると、趣旨が変わってくると思うので、もう一つ「SNS での相談」などという項目を別に設けることもできるかと思う。
(株) ぎょうせい担当者	・ 専門相談機関には、電話やインターネットなど、様々な手段があると思い、このようにしたが、たしかにインターネットで少し調べて、専門相談機関ではないところに相談する可能性もある。「インターネットの一般的な相談サイト」などといった選択肢を一つ起こしたらどうかと考えた。事務局と検討する。
清板委員長	・ そちらの方が多いような感覚があったので、ぜひお願いしたい。 ・ 問 20 は、性別や年齢などによって回答が異なると思う。クロス集計を出すのか。
(株) ぎょうせい担当者	・ 今回は様々なクロス集計を想定している。1 ページに属性の質問があり、問 3 には年齢がある。若い年齢限定ですが、30 代になれば、子育て世代が入る可能性もあるので、年齢による差を考えている。また問 7 で職業を聞いている。性別と年齢と職業別など、きめ細かく集計していきたいと思う。
清板委員長	・ その際に、統計的に有意な傾向を示すのかどうかもできるか。
(株) ぎょうせい担当者	・ ある程度、このくらいの差があれば、有意差があるのは分かるので、ご提案やご報告をしたいと思う。
清板委員長	・ 続いて、参考資料 2 について伺いたい。

議事内容	
委員	・児童・生徒、保護者は、学校を通した配布とあるが、全員に配布か、それとも若者世代のように抽出して配布するのか。また、単に配布するだけなのか、それとも学校で、タブレット等で回答するような形か。確認させてもらいたい。
事務局	・児童・生徒全員を想定している。 ・アンケートを配布して集計するまでの期間が取れないと思っているので、現在は学校を通した配布を考えている。 ・小学生の場合は、分かりにくいということもあるかもしれないので、可能な範囲でご協力があるとありがたいと思っている。一番ありがたいのは、どこかで時間を取り、説明しながら回答してもらうことだが、難しいと思うので、基本的には配布という形になるかと思う。
委員	・内容に触れない、単なる配布であれば可能だが、学校で時間を取り、説明しながらになると、内容的に学校で回答してもらうのはどうか気になる項目がいくつかある。保護者対象も、家庭の事情にかなり踏み込んだ内容があるので、学校が配布したら「そこまでする必要があるのか」と言われる可能性がある。学校としては、誤解を招く可能性がある。 ・また、配布だけの場合、説明が簡単なので、どうしてこのアンケートをするのか、どういう目的かの補足説明がないと、分かりづらいと思っている。学校として、渡すだけでないのであれば、内容を検討してもらいたいことがある。
清板委員長	・内容についての指摘があった。実際、学校現場で実施すると「先生、どう答えるの？」という質問が当然出るだろうし、どのように考えているのか。
事務局	・今回、貧困やヤングケアラーの実態を改めて把握するため実施するので、踏み込んだ表現が気になるのだと思う。例えば、何のために調査が必要なのかという全体の話、各項目について、こういう意味でこういうことが必要だという話を入れるとなると、結構なボリュームになる。そのあたり、こういう表現の方が伝わりやすいなどのご提案があればと思う。それを基にして内容を調整するために、本日の会議でご案内している。表現を変えたために、結果として得られるデータが違ってくことや、趣旨が変わるのはいけないので、表現についてはご相談したいと思う。
清板委員長	・子どもたちには分かりにくいということがあり、保護者からは、なぜここまで聞くのか、答えたくないという反応が当然出てくる。特に小学生においては困惑するのではないかとと思われる。 ・具体的に、どこまで項目を挙げて審議するか、ワーキンググループのようなものを作って審議するか、お任せして修正案を提示してもらい、確認する時間を作るか、そのような作業は可能か。
事務局	・時間的なものがあるので、それは不可能。まず、本日の会議で気になる箇所を挙げてもらい、調整していくことになるかと思う。 ・（株）ぎょうせいは、ほかの自治体でこども計画を策定する際に、アンケート等を実施しているが、調整や工夫はあるか。

議事内容	
(株) ぎょうせい担当者	・国では、何年も前からヤングケアラーに関する調査や貧困に関する調査を実施している。岡山県でも、貧困に関する調査やヤングケアラーに関する調査を実施されている。その中には辛辣な質問やナーバスな質問も入っている。 ・例えば「あなたは以下のようなことがありましたか」という質問があり、「一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる」というもの、「体を傷つけられたことはありますか」というものもある。このように国では、子どもにそういった調査をした実績はあるが、玉野市の計画ではそれが必要か吟味して、ナーバスなものは削除し、玉野市に応じた選択肢をご提案した経緯がある。 ・ほかの自治体でも似たような中身で実施した。学校を通した配布では、小学5年生と中学2年生の回収率が98パーセント、ほかでは94.3パーセントと、回収率が良かった実績がある。 ・今回、子どもと保護者の回答をマッチングして分析する手法をご提案している。表紙に回答者番号とパスワードがありますが、これは一人一人異なり、子どもがこれらを入れて回答する。保護者もご自宅で同じ回答者番号とパスワードを入れて回答してもらい、集計の際にマッチングする集計を考えている。もちろん回答者番号とパスワードは、個人を特定するものではなく、あくまでも親子をマッチングさせるものである。なぜマッチングさせるかという点、親の世帯年収によって、子どもの生活の実態が異なるかなど、きめ細かく分析していきたい意図がある。質問文や選択肢については「これはどうなのか」と、ご心配されることがあるかもしれない。国の通りではなく、できるだけ柔らかい表現に努めたつもりなので、加味してもらえたらと思っている。
清板委員長	・アンケートを作成した側からの意見があったが、どうか。
委員	・アンケートは、家での回答にしてもらいたい。回答は、かなり時間がかかると思うが、学校でその時間を割くことは難しく、子どもから質問されても、教員が答えるには難しいというのが一つある。配布にあたっては、子ども向けのアンケートに、保護者向けの説明文を付けてもらいたい。子どもに対してはもちろん、保護者にこういう意図で子どもにアンケートをするというのを付けてもらいたい。保護者のアンケートの表紙だけでなく、子どものアンケートにも問い合わせ先を載せてもらいたい。 ・子どもと保護者の回答をマッチングして分析するという話があった。もし学校で配布する場合、保護者1部と子ども1部を1セットにして渡す方法になる。回答者番号とパスワードが前面にあるので、学校としてはそのまま配布するのは難しく、1セットずつ、外部から見えない封筒に入れるというひと手間がかかる。できれば、学校を通してでなく、玉野市から直接保護者に配ることができないか。今、「tetoru」というメール配信が市からできると思うので、そういうのをを使うと、紙媒体よりマッチングがスムーズに行くように思う。

議事内容	
委員 (続き)	・中身については、小学生、中学生、高校生の皆が同じ内容というのがどうかと思う。高校生は答えられるだろうが、小学生は、身近でない質問については、なかなか答えにくい、また、回答が本当にそう思っているかに結びついているのかと思う。例えば問 33 は、小学生が想像するのは難しい内容に思った。
清板委員長	・学校現場ではなく、家庭に持ち帰る形にした方がふさわしいということだった。関連して、子どもからの質問に保護者が説明できるよう、保護者に向けて説明文を付けてもらいたいという提案があった。又、問合せに関して子どもがするか、子どもに頼まれた保護者がするかはあるかもしれないが、子ども自身も疑問を抱いたり、回答に迷ったりするのではないかという指摘もあった。 ・マッチングのために、回答者番号とパスワードが付くとなると、1セットにして封入し、見えないようにして、子どもに手渡すようにしてほしいという提案もあった。 ・内容については、年齢の発達差があるので、同じ質問では難しいのではないか、結局子どもの実態を反映した情報を取れないのではないかということだった。
事務局	・保護者向けの説明文、子どものアンケートに問い合わせ先を記載することについては、対応したいと思う。 ・子ども用と保護者用の資料の送付方法については、書類だけを送るのではなく、例えば、親と子のアンケートを1セットにして封筒に入れた形で渡すことで配布のご協力をお願いしたいと思っている。また、「t e t o r u」は、小学生に対して一斉にご案内することはできるが、アンケートを実施するのは難しいと思う。情報発信や発信方法の工夫をしていきたいと思う。
委員	・回答者番号とパスワードでマッチングして分析するという説明があったが、そこまで説明するわけではない。表紙の回答にあたって「2度回答しないようにするため」とあるが、2回回答しないための方法は、番号を入れなくてもできるように思うので、不自然で、探られているような気になる。どうなのか疑問に思った。 ・質問内容は、こちらで触れることがなければ構わない。
清板委員長	・現場の先生としては、内容で気になるところはあるが、市からの直接のアンケートということであれば、目をつぶるしかなく、分かりにくいのではないかなどの危惧があるということだった。同じようなもので実施したほかの自治体では、それなりの回収ができ、データもできたという経験があるのか。
(株) ぎょうせい担当者	・ほかの自治体でも、「2度回答しないようにするため」で実施したケースがほとんどである。これ以外で、正直に「親と子をマッチングさせるためです」と説明するのがいいことなのか、不安になってくる部分がある。これまでの実績から見て、2度回答しないようにするためで、本人を特定するものではないことを明記しておけば大丈夫なのかなと思っている。

議事内容	
委員	・中高生の娘がいるので、なんとなく親の気持ちでおり、学校の先生の意見はそうだなと思った。ヤングケアラーなど、親と子でそれぞれの見方、意見がある。親子と一緒にアンケートをやって、ちゃんとした答えが出るのかなと感じた。 ・こういうアンケートを学校で見たとき、皆さんが夢や希望を持って安心して生活できる社会をつくるためにといいながら、踏み込んだ質問をしているので、夢や希望を持って生きていく若い子たちに対して質問をしていくという感じがしない。こういうアンケートは必要だとも思うが、もっと違う形で子どもたちに聞いていける方法ができないかと思っている。
清板委員長	・自宅に持ち帰って、思春期の子どもと親と一緒にすると、そこに波紋が広がる、葛藤があるといった、いろいろなことが起きるかもしれないというようなことを含んだ意見だと思う。夢や希望というアンケートの説明の割には、踏み込んでいっているような意見だと思う。この点、玉野市としてはどうか。
事務局	・ご意見の通りで、様々な事情の市民がいると思う。個別の事情を伺うのは難しい部分があるので、全体的なアンケートを実施することで、全体の傾向の把握をすることが目的の一つである。併せて、個々の考え方を拾い出す工夫として、事業者側の提案だが、グループディスカッションを実施し、いろいろな話を伺う中で、キーワードなど特徴的な言葉を聞き出していきたいと思う。時間的なこともあるので、このような二段構えの形で取り組んでいきたいと思っている。
委員	・アンケートを見て、驚いている。玉野商工高校は、玉野市以外から来ている生徒が多い。市外の生徒や保護者は、問2で玉野市以外を選択して、玉野市の住みやすさなどに回答するのだとみている。封筒に入れ、学校で配布という話だが、市から直接郵送することはできないのか。そうすると、若者世代同様に、玉野市に住む高校生にダイレクトに送れると思う。この形で決定されれば、実施を引きうけるが、せっかくアンケートを取っても、使ってもらえなくなるのではないかという不安がある。また、教員から「どうしてアンケートを引き受けたのか」と聞かれても、きちんと答えられないと思った。
事務局	・市外から通う生徒が4、5割いるということは、重々承知している。市外の生徒や保護者が玉野市についてどう考えているのかということがあり、同じ内容にした。玉野市民に限定して発送できるかどうかについては、予算の関係もあるので確認し、改めて協議させてもらいたいと思う。
清板委員長	・玉野市が直接送る、又は学校で配布することは、玉野市役所からの意向である。学校が入ると、教員が矛盾を感じているにもかかわらず、学校が良いと判断して配布していものかと、回答者は認識することになる。直接発送することを検討する可能性はあるか。
事務局	・予算や事業者との調整を行い、可能かどうか検討したいと思う。
清板委員長	・参考資料3については、参考資料2の際に意見があったが、ほかにあれば伺いたい。細かい質問項目や選択肢の表現など、今日この場で聞き終えた方がよいのか。

議事内容	
事務局	・資料2に記載しているスケジュールのように、調査準備を含め、6月から8月下旬の期間で実施したいと考えている。アンケート発送までは、若干時間があるので、来週中くらいまでに、事務局にご意見をお願いしたいと思う。
清板委員長	・来週中までに、よろしくをお願いしたい。委員のいろいろな視点からの意見があった方が、分かりやすく実態を拾い上げる結果につながると思う。 ・続いて、グループインタビューについて、意見があれば伺いたい。 ・各グループ、参加者は何名を想定しているのか。
(株)ぎょうせい担当者	・グループインタビューについては、国の基本法が入って、実行計画が作られている。その中で、子どもたち、特に若者の意見を聞く機会を設けなさいというのがある。調査としてはアンケートがあるが、定型的なデータ、質的なものを求めるために、例えばワークショップやこども会議の開催などがあり、その中のグループインタビューを使っている。 ・今回ご提案しているのは、対象者に同じ会場に集ってもらい、調査項目案にもあるように、居場所や悩み、今後、情報発信するためにどのような方法がよいのか、受け取るにはどういう方法がよいのかを重点的に聞く形になる。アンケート調査より、もっと深掘りしていくことになる。 ・グループインタビューでは、イメージ写真のように口の字型に会場を作るので、1グループ6人から8人がベストである。例えば第1グループだと、学校の数や生徒会の数を考えて、2グループを作り、1時間半から2時間未満くらいの時間で行う。 ・調査項目は事前に対象者に伝えて記入してもらい、それらの意見を分析しながら、司会者が質問していく。例えばAさんの意見について、「この意見は、どういうことですか？」と質問したとき、Aさんだけでなく、Bさんが意見を言うなど、自由に意見交換できる場となるのが、グループインタビューの特徴である。それにより、新しい発見が出ることもある。 ・調査対象は3つのグループで、第3グループは、例えば青年会議所等から集めてもらうといったことが考えられる。1グループの人数は、大体同じ数である。多くの人の参加要望がある場合は、2グループに分けます。第3グループは、仕事をしている人もいるため、夜に開催することが多い。例えば昼に第1グループや第2グループに来てもらい、夜に第3グループに来てもらうなど、長い時間をかけて実施するものではない。何日か日にちを決めて行う。経験上、最も本音が聞ける部分で、素晴らしい意見が出ている。個人的には期待しているが、学校にお願いして、生徒や学生に来てもらうことになるので、クリアにしなければいけない問題があるかと思う。
清板委員長	・これから玉野市が各学校に依頼することになるのか。

議事内容	
事務局	今日の会議でご了承いただければ、各学校にご協力をお願いに行きたいと考えている。
清板委員長	グループインタビューについては、どうか。
委員	第3グループは「子育て家庭を含む」とあるので、青年会議所等のメンバー選択ではちょっと違うように思う。例えば、保育園や幼稚園に通わせている保護者などを対象とした方がよいように思う。
清板委員長	第3グループのメンバーが固定されていることについての意見だったが、どうか。
(株)ぎょうせい担当者	青年会議所等の人ということではなく、青年会議所等を通して紹介してもらう形で考えている。子育て家庭については、昨年度の子ども・子育て支援計画策定の際にアンケートを実施していると思う。今回の第3グループは未婚、既婚問わず、20代から30代の若者に来てもらって意見を聞くという、少し違う視点が入っていることをご理解いただければと思う。
清板委員長	こちら玉野市から依頼が行くのか。
事務局	こういったグループだと声を掛けやすいか、お願いしやすいかから検討しないといけない。そこで、例えば青年会議所や商工会議所がよいとなれば、市からお願いしたいと思う。今回の対象である若者世代のグループは、属性が交じり合っているところがなかなかないので、どこにご依頼するのかからの調整が必要だと思っている。
清板委員長	- 第1、第2、第3グループがそれぞれ一つのグループになるのか、いくつかになるのかがある。状況の異なる若者が集まると、会話のやりとりがスムーズに運べないということになってしまう可能性もある。また、ファシリテーターの力量もある。人選や人数、グループインタビューで得られたデータをどのようにまとめて、客観性のあるものにすることができるのか、様々な要素が含まれているような気がする。ほかの自治体での実施で、良い成果だったという実感を持っているようだが、私ならずとも委員が少し心配な感情を抱かれるのではないかという気がする。 - グループインタビューについて、どうか。
委員	第1グループについて、様々な事情を抱えている生徒もいると思うので、自分だけでなく、友達がどういう状況か、学校の中にはどのような生徒がいるのか、意見をまとめてまとめてもらい、それから来てもらう必要があるのではないか。参加する高校生は代表してやって来ると思うので、参加する生徒の負担になるように思った。

議事内容	
清板委員長	・参加する人が、周辺の同世代の友人たちの事情をレポートして会議に参加する考えもあるのではないかとのご意見だ。ヤングケアラーなど、一番捉えたい問題を代弁できることができるかどうかといったことも考える余地がある気がする。グループを選ぶ場所の検討があってもよいと思う。 ・時間をかければ、まだまだいろいろと意見が出て来るように思うが、時間の都合もあり、この議題については終わりたい。続いて、（３）子ども・若者施策を取り巻く本市の現状について、説明願いたい。
事務局	・資料３、４説明
清板委員長	・実際の感覚などを含めて、意見を伺いたい。
副委員長	・教育サポートセンターでは、玉野市内の課題のある子どもや若者たちの支援にあたっている。資料３の中にもあった、若年無業者や不登校、虐待の通報があった子どもの一部ではあるが、相談支援を行い、日々関わっている。 ・個別性が高いので、一概に実情や課題を語れないが、丁寧に関わっていくならば、相談支援体制が適切に整備されていること、本当に必要とする人が適切にアクセスしやすいような枠組を作っていくといけないことが課題だと感じている。加えて、今後前向きなことを検討していくということなので、そういった状況にならないよう、未然の予防が大事だと思う。相談支援の観点から見える課題を、市とこういう場所で共有し、計画の中に盛り込んでいけるといい。事前に受け取った項目を見て、少し準備して臨んだ。
清板委員長	・実際に子ども、若者に接して仕事をしている立場からの意見で、丁寧、きめの細かい聞き取りと、予防的な施策を策定する計画に組み込んでいきたいという意見だと思う。具体的な意見を更に聞かせてもらいたいと思う。
委員	・移住して１０年、玉野市でプロダクトデザインをしている。子どもが不登校の時期があり、教育サポートセンターに長く行かせてもらった。今、子どもは学校へ行けている。 ・仕事の面では、ひきこもりで仕事のない１０代、２０代の子や３０代をサポートしていきたいという気持ちがあるが、個人でそういう人たちと関わるのが難しく、玉野市に間に入ってもらえると、親が安心し、私たちもやりとりがスムーズになる。家でないとできない、会社など社会の中に入るのが怖い子たちをサポートしたいと、ずっと思っている。ニートなど、そういう子たちが増えている実情があり、社会に出るのが難しいのもそうだと思うので、近い所でマッチングできるようなことを市と協力してできたらと思っている。

議事内容	
清板委員長	・不登校の子ども、不登校から始まってニートになっている若者も、場所やチャンスがあれば自分の力を発揮できる。整えた環境があれば、家の中に役割を引き入れて、自分を生かした仕事ができるなど、様々な形で子どもが自分を生かすチャンスが提案できる。このような役割は、行政がしやすい位置に立っていると思うので、実態だけでなく、そこにあるニーズをヒアリングしていく。本人や家族、支援者たちの具体的で必要としているニーズを聞き取り、何らかの形で実現していくようなサポートも考えていかないといけないと思う。 ・ほかにあれば、伺いたい。 ・なければ、議事を終了する。
事務局	・アンケートの内容をはじめ、会議で出されたご意見には、調整すべき項目があると思う。来週いっぱい期限となるが、ご意見などがあれば、お願いします。また、計画を策定する中でも、随時ご意見をいただければと思います。 ・続いて、その他の（１）子ども・子育て関連協議団体の取り扱いについて、説明します。 ・資料５説明 ・こども誰でも通園制度説明 ・その他の説明で、ご質問がありましたら、お願いします。また、そのほかに何かありませんか。 ・今後の会議について
副委員長 （閉会挨拶）	・事務局の皆様においては、詳細な資料と説明をありがとうございました。これを基に、事前に協議してもらいたい項目について、協議したところだと思います。特にアンケート調査については、時節柄があるのでしょうか、皆様のご指摘やご意見から、一つの調査をするにも、非常に繊細な準備が必要で、慎重に丁寧に進めていかないといけないんだらうと思いました。ただ、玉野市の子どもたちの実態を把握する上で、アンケート調査が有効であることは間違いないと思いますので、的確に行われていけるよう、今後積み重ねていけたらいいのかなと思います。こういった機会をいただいたので、本日、実は緊張高く来ました。未来ある玉野市の子ども、若者の前向きな計画を検討する会議にしては、若干空気が重たかったかなと個人的に実感しています。この後、年間を通じて２回、３回、４回と計画的に会議が実施されるということなので、玉野市の子どもたちのために皆様と協議できたらと思います。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。
事務局	・閉会

以上